

2017年9月通常会議 議案と請願に対する討論

2017年10月2日

岸本 典子

私は日本共産党大津市会議員団を代表して、

[議案第91号](#) 平成29年度大津市一般会計補正予算（第2号）について
の委員長報告に対する賛成討論、

[議案第118号](#) 大津市個人情報保護条例の一部改正について

[議案第121号](#) 大津市介護保険条例の一部改正について

[議案第122号](#) 大津市営土地改良事業経費の賦課徴収に関する条例の一部改正について

[議案第123号](#) 大津市県営土地改良事業分担金等徴収条例の一部改正について

[議案第124号](#) 大津市企業立地促進条例の一部改正について

[議案第125号](#) 大津市都市公園条例の一部改正について

の委員長報告に対する反対討論、

及び

[請願第6号](#) 少なくとも責任ある避難計画が策定され、核廃棄物の最終処分場選定プロセスが開始されるまでは、大飯原発3、4号機の再稼働を行わないことを求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願

[請願第7号](#) 安心できる介護を実現するため、介護報酬の抜本的な引き上げを求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願

についての委員長報告に対する反対討論を行います。

まず、議案第91号 平成29年度大津市一般会計補正予算（第2号）についてです。

病児保育の拡大、商店街の空き店舗活用など、市民の暮らしに向き合った事業拡大などの予算が多く盛り込まれた本議案に賛成するものですが、以下、数点、指摘させていただきます。まず、学校体育施設開放事業や敬老祝い支給事業など、削減ありきで拙速に進めたことが、結果として今回の補正で復活させるに至ったことは、反省されるべきで、今後の予算執行や行政改革の進め方についても慎重かつ、十分配慮を求めるものです。

また、ラインを活用したいじめ防止対策については、一般質問でも指摘しましたが、子ども自ら相談してくる窓口の拡大で反対するものではありませんが、保護者や学校現場の意見が十分反映されていないことが危惧されます。さらに、子どもが抱える不安はいじめに限らず様々な要因があります。こうした点からもいじめに特化せず、虐待や不登校など、子どもが抱えている困難に市としてどのように把握していくのか部局横断的に検討していただくことを期待するものです。

学校施設の改修についても、人口が増えている学区など必要な改修や新築・増築にも積極的に取り組んでいただくことを求めて本議案に賛成します。

次に議案第118号 大津市個人情報保護条例の一部改正についてですが、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律の一部改正に基づくものです。

しかし、行政機関が保有する個人情報の提供や取り扱いに関わる業務について、派遣労働者及び、再委託を受けたものに、罰則を適用できるようにするもので、市独自の民間委託推進を前提として

います。また、管理上の不適切な情報流出や漏洩などの懸念も払拭されないことから、本議案に反対します。

次に議案第 121 号 大津市介護保険条例の一部改正についてですが、本議案は地域包括ケアシステムの強化の名の下に、過料を科す対象を、第 2 号被保険者を含めて、全ての被保険者の世帯や配偶者にまで対象を拡大するものです。こうした背景にはマイナンバーを活用することを想定しており、強制的な保険料徴収につながることから本議案に反対します。

次に、議案第 122 号 大津市営土地改良事業経費の賦課徴収に関する条例の一部改正について、議案第 123 号 大津市県営土地改良事業分担金等徴収条例の一部改正については関連していることから合わせて討論します。

両議案は国の土地改良法一部改正によるもので、議案第 122 号 は、農地中間管理機構が借り入れた農地について、都道府県が土地所有者の申請によらず、同意・費用負担を求めずに基盤整備を実施できる制度を創設するものです。

これにより農地の基盤整備について、土地所有者の費用負担を求めず条件のよい農地を増やし、農地の集積を進めるとしてはいますが、実態は、地域の話し合いと自主的な取り組みが行われ、借り手が見つかる場所だけで、条件の不利な土地ほど機構は借り受けないために集積が進まないという問題があります。

さらに、議案第 123 号では、農地中間管理機構が貸与権等を取得した農地を対象とする申請によらない県営土地改良が創設され、当該農用地を 8 年が経過する前に用途を変更した際には特別徴収金を徴収することを本条例改正により規定しました。

両議案共に、今、必要なことは地域の取り組みなどを直接財政支援していくことであり、機構を通さなくても地域の自主的な農地集約計画ができれば、農家の費用負担なしに土地改良事業を実施できるよう農家を支援していくことです。

よって法改正に伴う本条例の制定について反対します。

次に、議案第 124 号 大津市企業立地促進条例の一部改正についてです。

大津市企業立地促進条例の一部を改正する条例の制定は法称や目的から「地域における産業集積の形成」を削除して、「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律」に改めたことによるものです。

これまでから日本共産党大津市会議員団は、企業立地促進に対して、大企業の誘致に市民の税金を投入することに反対してきました。よって本条例の制定に反対するものです。

次に、議案第 125 号 大津市都市公園条例の一部改正についてです。

本条例の改正は、公募選定された民間営利企業が、収益施設と併せて広場整備等を条件に、都市公園のリニューアル実施する際、公園内にカフェやレストランその他の公共還元型集積施設の建坪率を 2%から 12%へ緩和して、設置・管理を認めるものとなっています。都市開発事業を実施する民間開発事業者が、都市公園を自由に使用し儲けの場とすることも懸念されます。都市公園は公共空間であり、災害時の避難場所などの機能を損なうおそれがあり、都市公園法改正については看過できず、規制緩和を盛り込んだ条例改正に反対です。

最後に、請願第 6 号、請願第 7 号についてです。

まず、請願第 6 号 少なくとも責任ある避難計画が策定され、核廃棄物の最終処分場選定プロセスが開始されるまでは、大飯原発 3、4 号機の再稼働を行わないことを求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願についてです。

2014 年 5 月 21 日、福井地裁で、樋口裁判長は、住民らの人格権と電力の安定供給やコストの問題をてんびんにかけた関電側の議論を厳しく退け、「国富の喪失」とは運転停止による貿易赤字ではなく、「豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していること」を失うことだと強調しました。

さらに、判決では、地下深くで起こる地震現象について、「仮説や推測に依拠せざるを得ない」と指摘し、大飯原発から 250 キロ圏内の住民は、運転によって人格権が侵害される具体的な危険があると述べており、大津市もこの対象地域となります。

また、核廃棄物の最終処分場の候補地についても、調査・選定は進んでいません。

しかし、今、川内、伊方、高浜と続く原発再稼働の動きが加速し、大飯原発については、樋口判決がなかったかのように進められ、3 号機、4 号機が来春にも再稼働される計画だと報道されています。

政府は、規制委員会の審査に合格し、地元の自治体が同意した原発は再稼働させると繰り返していますが、原子力規制委員会自体が安全性を保証するわけではないと再三発言しています。しかも、規制委の審査は国際的には常識となっている住民の避難計画は対象外です。

事故が起きることはありうるとして、地元自治体には避難計画をつくるよう指示しながら、国も規制委も避難計画を審査しようとしするのは文字通り無責任のきわみです。

再稼働にあたっての避難計画は福井県民の避難経路が京都府や滋賀県民の避難経路と重なっており、大渋滞が予想されるなど避難計画に実効性はありません。

これでは住民が安心できるはずもなく、事故が起これば大津市民にも多大な影響が及ぶこと明白で、大飯原発 3、4 号機の再稼働を行わないことを求める本請願に賛成するものです。

次に、請願第 7 号 安心できる介護を実現するため、介護報酬の抜本的な引き上げを求める旨の意見書の提出を求めることに関する請願についてです。

今年 5 月、地域包括ケアシステム強化法が、社会福祉法、老人福祉法、障害者総合支援法、児童福祉法など、31 本もの法案と一括して採択されました。

介護保険法では、一昨年 8 月に続き、利用料の 3 割負担を導入するなど、利用者に重い負担増を押し付け、さらに、自治体の給付適正化の取り組みに応じて、財政的インセンティブを与えるものとなりました。

介護現場では人材確保に困難を極めています。この、最大の要因は、介護現場の実態に見合わない、職員配置基準と、介護報酬の低さにあります。

前回の改定では報酬削減が強行された結果、介護現場の職員の処遇は全産業平均より 10 万円安くなっており、続けたくても続けられないのが現状です。

今議会、大津市では唐崎・三大寺・晴嵐のデイサービスセンターの事業を社会福祉事業団の自主事業に移管するための議案が提案されましたが、事業団でも深刻な人手不足に頭を痛めておられます。

現在、2018 年度の介護保険制度改定へ向けた議論が、厚生労働省の審議会で行われており、大津市でも第 7 期介護保険事業計画を策定していますが、人材不足の悪循環を断ち切る改革こそ喫緊の課題であり、介護報酬の引き上げを求める本請願に賛成し、討論を終わります。